

2024 年 10 月 29 日

## 国連・女性差別撤廃委員会、婚外子差別に対する＜懸念と勧告＞

>

### 4 度目の勧告

#### 第 11

委員会はまた、既存の差別的な規定に関するこれまでの勧告のいくつかが、特に対処されていないことに懸念をもって留意する。

(b) 婚外子の出生届における差別的記載に関する戸籍法の規定が維持されている。

#### 第 12

前回の勧告（パラグラフ 13）を想起し、委員会はまた、締約国に対し、次のことを勧告する

(b) 婚外子の地位に関するすべての差別的規定を廃止し、婚外子とその母親を社会における偏見と差別から保護すること。

※過去 3 回の勧告は、2003 年、2009 年、2016 年に出されている。

#### <原文>

11. The Committee also notes with concern that several of its previous recommendations regarding existing discriminatory provisions have not been addressed, in particular:

(b) The retention of the provision in the Family Register Law concerning the discriminatory description in birth notification for children born out of wedlock.

12. Recalling its previous recommendations (para. 13), the Committee also recommends that the State party:

**(b) Abolish all discriminatory provisions regarding the status of children born out of wedlock and protect them and their mothers from stigma and discrimination in society.**